

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	福島県会津若松市 広報広聴委員会
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会でいただいた意見の取り扱いについて ・市民との意見交換会、分野別意見交換会の運営 ・広報議会モニターの取り組み
調査目的	意見交換会の運営および広報議会モニターなど先進的な取組を調査・研究し、柏崎市議会での広報広聴活動のさらなる進化につなげるため。
日時	令和4（2022）年11月2日（水）午前10時～正午
場所	会津若松市役所迫手町第二庁舎（仮庁舎）1階 会津若松市議会 議場
調査概要	<p>福島県会津若松市の概要 人口 114,639人（令和4（2022）年4月1日） 世帯数 52,016世帯（令和4（2022）年4月1日） 市域面積 382.99 km²</p> <p>(1)分野別意見交換会について 市議会の政策形成サイクルに対しての一定の期待を寄せる中でそれぞれの現状等について、議会と意見交換を行いたいというのが趣旨であった。 分野別意見交換会とは、教育、文化、福祉、産業等の分野ごとに行う意見交換会であることから常任委員会、政策討論会など議会内における政策立案の必要に応じて開催するほか、各種団体等の要請に応じて開催している。</p> <p>(2)議会モニター制について 市民がより身近なものとして広報議会への関心を高め理解を深めるためにアンケートを実施し、広く市民の意見を広報議会の編集に反映することにより広報広聴機能の事実を図るために導入されたものである。構成としては一般公募のほか各種団体、各高校から推薦を受けた約60名に委託される。任期は2年としている。</p>

視察の様子



質疑 応答

- 質疑** 意見交換会はどのような経緯で始まったのか。
- 回答** 当時議会基本条例が次々に制定されるものの、その中の必須3要件(①議会報告会 ②請願者・陳情者の意見陳述機会の確保 ③議員間の自由討論)は実態が伴っていないのではないかとこの危機感があり、基本条例制定後から始まった。
- 質問** 市民との意見交換テーマをどのように決めているか。
- 回答** 区長から地域の課題を聞いて決めたり、班ごとに課題を出したりする。
- 質疑** ファシリテーション等のスキルアップに取り組んでいるか。
- 回答** 以前は喜多方市議会とカフェトークのやり方の研究や取り組みを勉強したが、実施、実行はまだできていない。
- 質疑** 意見要望について市の所管部署と協議することはあるか。
- 回答** 現地を視察するなど状況を確認した上で所管課へ連絡し、後日、市民へフィードバックする。

	<p>質疑 オンライン意見交換会、SNSの活用をしているか。</p> <p>回答 コロナ禍で必要性を理解。今後進んでいこう。</p> <p>質疑 中学生や高校生など若者との意見交換を予定しているか。</p> <p>回答 毎年6月に高校生が傍聴に来ている。それ以外でも予定している。</p> <p>質疑 意見交換の課題は何か。</p> <p>回答 出席者の固定化、批判的意見に対しての進行が難しく、ファシリテーターが大変である。</p> <p>質問 議会モニター制はどのような経緯で始まったのか。</p> <p>回答 議会の働きや成果が市民に十分に伝わっていないと感じ、市民から議会広報誌を読んだ意見などを伺うことにより広報誌の充実を図るだけでなく広報誌を通じた傍聴「議会ウォッチング」から市政や市議会への関心を高めてもらいたいことから始まった。</p> <p>質疑 広報議会モニターはどのような団体で構成しているのか。</p> <p>回答 各種市民団体や各高等学校からの推薦選出により、約60名で成り立っている。</p> <p>質問 モニターからの意見をどのように活用しているか。</p> <p>回答 頂いた意見は広報広聴委員会で十分に検討し、取り入れる内容については広報議会に反映している。</p> <p>質疑 広報議会モニター制の課題は。</p> <p>回答 政策提言まで行ってもらいたい、まだ進んでいない。</p>
委員会所感	<p>【三宮 直人】</p> <p>政策形成のサイクルが出来上がっていて、その政策形成の起点として意見交換会を行っているという位置づけは参考になる。また意見交換会で得た意見のうち必要な場合は現地を確認することは柏崎市でも必要ではないか。議会改革の意味からやるべきことが多くあると認識した視察だった。</p>

【星野 幸彦】

『政策形成サイクル』において意見交換会は重要な役割を果たしている、意見交換会において市民から地域の課題・要望・問題点を聴取・対応し政策立案につないでいくという、まさに市民のための政策立案を可能とした取り組みであり、柏崎市も見習うべきところである。またこのサイクルにおいて必要に応じて現場確認も行われており、事例を紹介されていたがこれも必要なことではないかと思われる。

【重野 正毅】

議会として本を出版していることでやや圧倒された気持ちで臨んだ視察でした。現在の広報広聴委員会としての活動が始まった経緯から議会基本条例における位置づけ、これまでの取り組み事例などは学ぶところが多くありました。世代交代が早い議会においては、議会改革についてまとめたものを作成していくことが必要だと思いました。

市民との意見交換会の実施における広報広聴委員会と予算決算委員会の役割、議運が関わらずに会派代表者会議で進めていくことなど、柏崎市とかなり異なったところもありましたが、市民の声を市政に生かすのは議会の使命だという意識は同じものでした。

【田邊 優香】

会津若松市は議会改革の先進自治体である。市民との意見交換会は、政策形成サイクルのほとんど全てにおいて極めて重要な制度という位置付けで行われている。意見交換会での市民からの意見は議会ですっかりと話し合われ政策提言につなげている。

広報議会モニター制も取り入れられており、複数の団体や一般公募で成り立っている。市民からさまざまな意見を取り入れやすい工夫がされていると感じた。

柏崎市でも市民参加による政策提言ができるような取り組みが必要であると感じた。

【白川 正志】

足利市と同様に、多世代・多分野の市民との関わり合いをつくり、より多様な広聴広報につなげているか？—の視点で視察

に臨んだ。市民との意見交換会の地区別では、出席者の高齢化・固定化傾向が見られ先進的な会津若松市でも多くの自治体と共通の課題があることを再認識した。その補完として分野別意見交換会を実施されており、柏崎市においても可能性を模索したいと考える。また、意見交換会の開催の際には前回の報告書を配布し共有している点も継続性を持たせるために有効と感じた。さらに広報議会モニター制度を市議会モニターとして、議会改革や広報に対する市民意識を把握していく有効な選択肢と気付かされた。

【樋口 良子】

市民との意見交換会の実施を議会基本条例で義務規定として、政策サイクルに沿って実施されていることは、大変参考になりました。ある地区の水資源問題で、議会側がなんら対応しないことを住民が不服として意見交換会を断ったことをきっかけにして、住民からの意見を精査して行政側に伝えるもの、必要に応じて関係者と協議するなど、意見を聞きっぱなしにせず、それぞれ対応している点は、大いに学ぶべきだと思いました。

【相澤 宗一】

会津若松市議会は議会改革の先進地である。市議会が健全かつ市民の負託に応じていくための根幹となる条例「議会基本条例」の制定を平成 20 年 6 月に行うなど議会改革の手を緩めていない。その現場に行くということで緊張の面持ちで伺った。

主たるは「政策サイクル」について。政策提言に関する議会運営は広報広聴委員会が主体となって実施されていた。

大本は市民との意見交換において上がってきた声への対応である。その声の扱いをシステムチックに、基本フレームでも細かく示している。必要なら関係諸団体との意見交換も随時行うとのこと。

そして最初の市民との意見交換の場へリターンをし、サイクルを回している。柏崎市議会として政策サイクルを形成する場合は、継続性を考え、スタート地点である市民との意見交換会にて今まで出されてきている意見の扱いも視野に入れる必要があるように思う。

議会改革先進地の会津若松市議会がトライアンドエラーにより現在の形を築いてきた具体例をお話しいただいた。市民から

何度も上がる内容がある場合は、^{しんし}真摯に受け止める姿勢を忘れずに保ってまいりたい。

【若井 恵子】

会津若松市における政策サイクルは市民との意見交換会から始まり、そこで聴取した意見について広報広聴委員会が意見整理をし、問題を発見。課題を設定し、予算決算委員会で政策研究を行い、その後政策立案、政策決定へと続く。意見交換会で出された意見について^{しんし}真摯に応える姿勢を学んだ。議会報告会や意見交換会を始めた当初は意見交換会への市民の意見は厳しかったが、7年前から市民との^{しんし}真摯な対話、解決提案型の意見交換会へと変化してきたとのこと。どこの議会も参加者数の伸び悩みはあるが、さまざまな属性との意見交換会を継続して粘り強く行っていく必要性を感じた。また広報議会モニター制度については、議会モニターとして広報のみでなく議会全体の意見や提言を伺う制度として当市においても検討してもよいと思う。

【阿部 基】

会津若松市は長年議会改革に取り組んでいる先進自治体である。政策サイクルとして、市民との意見交換会での要望や意見を議会内部で整理、討論などを行い、市へ政策提言として行っている。市民や議員の賛否、予算の仕分け、市長の考えなど、難しい点が多いが、次回の意見交換会にて市民へフィードバックを実施していた。

また、意見交換会のテーマ選定は町内会長と協議するなど、地域に見合った内容で実施していた。意見交換会を行うための事前準備や意見交換会後の議会内部での討論などの重要性を痛感した。

また、広報議会モニター制を導入しており、多くの団体、町内会長から意見を聞ける体制は取り入れる必要を感じた。